

定価二〇〇円

一九七一年一月二五日印刷
一九七一年一月二五日發行

大お渡た大お滝き利比安あ高た末ま
久く辺あ間ま田た光う堂どう橋は木き
保は知ち
輝てる守も靖き文ふ哲し信ん康き利比
臣お章あ子に彦ひと夫お也や也や文ふ

理想社印刷・加瀬製本

発行所 株式会社 白水社
印刷者 田中昭三
発行者 草野貞之

東京都千代田区神田小川町三の二四
電話東京(21)七八一一(代)
振替東京三三三二二八
郵便番号一〇一

(分) 0397 (製) 51560 (出) 6911

現代世界演劇

6

演劇(一)

Roland Dubillard..... **LES NAIVES HIRONDELLES**
——芝居 高橋康也・中島信也
——「ルーない」ふな燕たち 末木利文

Samuel Beckett..... **LE GRAND CEREMONIAL**
——「ルー」大典礼 利光哲夫

Fernando Arrabal..... **LE GRAND CEREMONIAL**
B・ヴィアン——將軍たちのおやつ 満田文彦

Boris Vian..... **LE GOUTER DES GENERAUX**
R・ヴェンガルテン——夏 大間知輝子

Romain Weingarten..... **L'ETÉ**
E・イヨネスコー——殺戮ゲーム 渡辺守康

Eugène Ionesco..... **JEUX DE MASSACRE**
解説 大久保謙臣

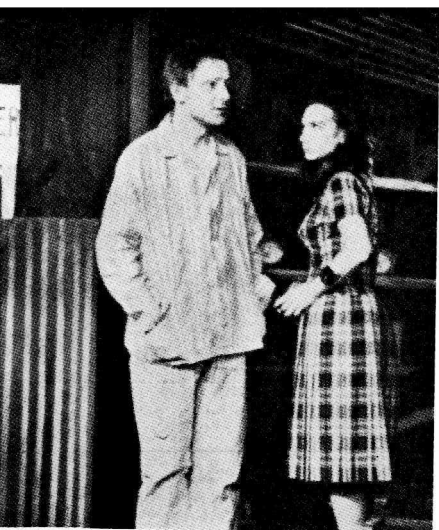




ヴェンガルテン「夏」



デビューヤール「ないーぶな燕たち」



目次

R・デュビヤール作 末木利文訳 ないーぶな燕たち	7
S・ベケット作 高橋康也・安堂信也共訳 芝居	91
F・アラバール作 利光哲夫訳 大典礼	109
B・ヴィアン作 滝田文彦訳 將軍たちのおやつ	195
R・ヴェンガルテン作 大間知靖子訳 夏	261
E・イヨネスコ作 渡辺守章訳 殺戮ゲーム	317
解題	395
解説 大久保輝臣	401

装
幀

朝
倉

攝

ローラン・デュビヤール作
末木利文訳
ないーぶな燕たち

Roland Dubillard
LES NAIVES HIRONDELLES
©1962 Éditions Gallimard

登場人物

ジェルメーヌ

マダム・セヴラン

ペルトラン

フェルナン

第一幕

秋のある夜、なにを売る店か定かではない小さな店舗の内部。小路に面した入り口から、ひとりの貧しげな少女がはいってくる。これがジェルメーヌである。彼女はこの殺風景な店内をおずおずとながめまわす。

第一景

ジェルメーヌ（呼んでみる）だれもいませんか？（ひとり言で）ここでないとしたら、どこでもないことになるじゃない。（持ってきたトランクの上に腰かける）……（きっぱりと）きつとここよ……（呼ぶ）マダム・セヴランのお宅、こちらですか？……（ひとり言）困った、でもしようがない、待つことにしよう。広告だけ出しといて、まさか！ わたし、絶対ここで待ってる。これで八軒目。あちこち八軒も……いろんなお店を尋ねてまわったことになる。（身のまわりをながめる）こここの主人は

きつとまだ素人^{しょうと}なんだわ。待とう。帽子なんてひとつも
ありやしないじゃないの。(間) 行こう。(ふたたび間。
呼ぶ) どなたもいませんか? マダム・セヴラン! こ
ちらですか?……(ひとり言) まったく……(間、やがて
静かに) なるようになるわよ、ね? (ぼんやりと夢見
心地になる。やがて、やっと聞こえるか聞こえないかの
ような声で夢から覚めるのである) 叔母ちゃん、叔母
ちゃん、叔母ちゃん……(体を揺り動かし、調度をなが
め……皮肉っぽく) けっこういけるじゃない、このお店
……(やぶから棒に、歌い上げる) 紳士淑女のみなさま、
どうぞこちら……(部屋の隅を見、驚いて) まあタイ
ヤ! タイヤ。こんなことって、またお店をまちがえた
んだわ。でもそいじゃ、あの広告はどうしたのよ? 帽
子なんて……まるで帽子なんてないじゃない。まるっき
りありやしない!

足早にひとりの婦人がはいてくる。これがマダ
ム・セヴランである。

第二景

マダム・セヴラン だれもないの?

ジェルメーヌ ええ。

マダム・セヴラン あらそう! もっと大声を張り上げな
くちや。(叫ぶ) だれもない? (沈黙。ジェルメーヌ
に) ここでお待ちになる?

ジェルメーヌ ええ……いいえ……ええ、待ってます。

マダム・セヴラン そう。じゃ、この瓶^{びん}頼むわね。(テー
ブルの上に置く) わたしあ、ちょっと出てくるから、連
中のポテト・チップスよ。ごゆっくり、連中のことだか
らすぐ戻ってくるわよ。暑かないでしょ、え? (出て
いきながら) いずれにしても、あとクレゾールを一リッ
トルだけだから。すぐ戻ってくるわ、じゃ。(出てい
く)

第三景

ジェルメーヌ あの! マダム! マダム!……マダム・
セヴランのお宅は? (ひとり言) しょうがない、すわ
ろうっと、でもさ? こんな時間だっていうのに……

あの連中のポテト・チップス?……クレゾールを一リッ
トル……依然として謎^謎の人物ばかり、いやんなっちゃう
わ! どのみち、だれも田舎に帰れなんて言わないだろ
う、もうこんな時間なんだもの! いやよ、実際、がま

んできないわ！でもやっぱり、仕事を見つけないくちや、ここに来ればあるんだし、雇い主なんてナポレオン気分ど、わが輩の辞書には不可能という字はないってんだから。（雑誌を広げ、声をたててあくびをする）《ポテト・チップス》か……

ふたたびいくばくかの沈黙。と、ジェルメーヌの足もとまで届いていた長い紐がぴんと張られる。隣の部屋にいるだれかがもう一方の端を持っていて、そのだれかがはいってくる。この男、紐を巻きながらはいってくるものだから歩きかたも緩慢である。

そのうえ、この男はなにやら小脇に小さな瑣瑣^{ほうろう}びきの金だらいをかかえている。名前はベルトラン。ジェルメーヌは立ち上がる。やっとベルトランはジェルメーヌに気がつく。

ジェルメーヌ あ、お邪魔します。その、なぜここに
いるかという、《こんばんは》、つまり、実は、その新
聞で……

ベルトラン こいつはまた、なんてこったい！妙な話もあるもんだ！こんばんはお嬢さん。あんたのことならよく知ってるよ。

ジェルメーヌ まあ、いいえ、そんなことはありません、絶対に。

ベルトラン いや、いや。昼からずっとあんたのことを考えてたんだ。ほら！（山とある雑誌のなかから一部を取り出し、彼女に一枚のカバーガールの写真を見せる）ほらね。あんたがおおぜい、街を散歩してらあ。

ジェルメーヌ あたしじゃないわ。

ベルトラン ああ……ここじゃ暗すぎらあ。それにしても、よく似てるじゃない、どう？

ジェルメーヌ さあ。あなた、この人を待ってたんじゃない？

ベルトラン まさか！そんなやつは知らんよ。だからびっくりしたんだ。

ジェルメーヌ おあいにくさま。

ベルトラン そんなことあないさ。あんただってなかなかいかすぜ。

ジェルメーヌ あのあたし、実は、今朝、新聞で……

ベルトラン ああ、そんならまったく話は別だ。どうも失敬。なにをさしあげましょうか、お嬢さん？

ジェルメーヌ ……新聞に……いいえ。ここに来たのは実を言うところなんです、叔母が死んだもんで、あたし、なんとか……

ベルトラン ああそう！そりゃなおのことよかった、と

いうのは、いまのどころたいしたものはないもありやしねえんだ。さて、そこで……いづれにしたって、こんな時間じゃね、ふつうならどこもしまってるだろう。いま何時？……そりゃそうと、で、ああ、新聞だつて？　こいつは、またいっちょよう、フェルナンだな。ま、どうでもいいや、こうして来たんだから、まあおかけなさい。おかけつてば、そのほうがよく見える。(テーブル用のスタンドで彼女をながめまわす)

ジェルメーヌ　今朝なんです、新聞を見てたら、あたし、田舎から来たんです。ほんとうにここんでしようか、マダム・セヴランの住んでるところ？

ベルトラン　マダム・セヴラン？　ああ。彼女を知ってるの？　ちょっと向こうをむいて。

ジェルメーヌ　いいえ、知りません。ただ叔母が……

ベルトラン　すぐ知りあいになるよ。わけはない。よしと、さてこれで完全だ。おれのほうは、これでオーケーだな。(呼ぶ)フェルナン！　なにぐずぐずしてやがるんだ。完全だな、じっとしてて、お嬢さん。やつが来るまでつと、あんたの名前は？　(呼ぶ)フェルナン！

——え？

ジェルメーヌ　ティルブー・ジェルメーヌです。

ベルトラン　ティルブーね……(呼びながら)どうしたってんだい、フェルナン！——ジェルメーヌね？　そう

か。こいつあ是非フェルナンに会ってもらわんと。おれは、これで失敬。なに、うまくいくよ。フェルナンに会ったら、あんたを見るように仕向けさえすりゃいいんだ。たぶんやつこさんにはなんのこともやらわかるまい、だってさ……しかし、そんなことあどうでもいいんだ。おれがあとで説明してやるからって言つときなよ。それから、おれにはなにも隠し立てなんかするなつて。おれのアイデアなんだから、やつが出したつていいわけだ。ジェルメーヌ　でもマダム・セヴランにはいつ会えるでしょうか？

ベルトラン　お好きなきにさ！　もうじきだよ。きみはとてみいかすぜ。おれの帽子を見なかったかな？　いいから、いいから、おかまいなく、きみが見なかったんなら、ここじゃないんだろう。(呼ぶ)フェルナン！——心配ない、すぐ来るよ。(出ていく)

第四景

ジェルメーヌ　(ただひとりスタンドの灯に照らされて)またいなくなつちやつた！　(見まわし、口をつぐむ)それとも、帽子の間屋かしら、いやだわ、そんなの。やつと縫い終わったかと思うと、売りもしないで、一ダ

ースまとめて包んじまうなんて。売らない帽子なんか作るのまっぴらだ。苦勞ばかりで、ちょっともおもしろくない。いやんなっちゃうな！（自分のまわりを見渡す）……ひとつも、なんにもありやしない。がらんどじやない。叔母ちゃんが死んでよかった、だって……田舎にいたほうがよかったわ、なんだと思ってるのよ！（フェルナンが《ないーぶな燕たち》を口ずさんでるのが聞こえる）あれがフェルナンだ。ああ、マダム・セヴランが来てくれないかな、なんだかこわいわ。（フェルナン登場）あの……

フェルナン おや！ おや！ 人がいるじゃない。どうぞお楽に。ペルトランという若い男を見かけませんでしたかね？

ジェルメーヌ ペルトランという人かどうかは知らないけど。

フェルナン そいつだ、帽子を持った、でっかいやつ……いやあ！ それほどでかいってわけでもないが。こっちへ来いってあいつがおれの名前を呼んだとき、あんたはここにいたんだな。フェルナン、それはわたしです。

ジェルメーヌ はじめまして、出ていきました、あの人、そこら。

フェルナン なにか伝言がなかったですかね？

ジェルメーヌ あなたにあたしを見るように言えって。

フェルナン あっ！ そいつだ！

ジェルメーヌ あの人に言ったんです。あたし、なんのこともまるでわからないって。

フェルナン いつもこうなんだ、ペルトランをやつは。察してやらないとね。ま、おすわりください。でないと拝見できません。（小声で歌う）《冬の寒さが花を凋^{しぼ}ませ……》（台詞に戻って）そうか！ 求人欄を見てきたの！

ジェルメーヌ ええ、そうなんです。

フェルナン だがなぜ、なんだってあの野郎、広告なんぞ出しやがったんだ！ とときどきあいつあ……ま、いいだろう、いいだろう。この場合はわざわざおれにお伺いを立てる必要はないんだって言ってやろう。

ジェルメーヌ あたし、田舎から出てきたんです。

フェルナン この時間ならだれも田舎へ送り返すはずはないと思ってんだね、お嬢ちゃん。

ジェルメーヌ あたし、ティルブルー・ジェルメーヌっています。

フェルナン ジャジェルメーヌ、もう一度おすわりください。話をしましょう。広告を出したのは、きつとペルトランだろうな？（テーブルの上にハンモックを広げる）

ジェルメーヌ さあわかりません。

フェルナン ぼくの名前はムッシュ・フォール。フェルナンと呼んでけっこう、そのほうが早い。（ハンモック

を吊りはじめると、ところで、ジェルメース、ねえ、きみ、瀬戸物の貼りあわせかた知ってる？

ジェルメース いいえ。

フェルナン (がっかりして) 知らないだって！ 瀬戸物の貼りあわせかたを知らないってえの？

ジェルメース ええ。いままでやったこともないわ。

フェルナン (一瞬間をおき、呼ぶ) ベルトラン！ (ほとんどひとり言のように) あいつはまったく類い稀なるやつさ。(彼女に) じゃ、瀬戸物の貼りあわせかたは知らないのか。ま、いい、いいやな。そりゃ、素直なのはたいへんけっこう。しかし、それにしても、それにしてもね。瀬戸物をこわすのはいとも簡単だよ！ だがこいつを貼りあわせるのは、えっどうだい！ (言葉を捜し少しは勉強してやってみようって気はないかな？)

ジェルメース (青くなつて) あたし……あたしはただここに……(喉がつまってしまふ)

フェルナン やってみようって気はあるのかな？

ジェルメース あたしが？ そんな、あたしにそんなことをやれなんて！……いったい……

フェルナン あるの、ないの？

ジェルメース そりゃ、あるかもしれないけど……

フェルナン そうか、それでけっこう。また立っちゃったの？ まあおすわりしたら。あわてる必要は全然ないん

だから。

ジェルメース (すがりつくように) マダム・セヴランに。あたし、マダム・セヴランに会いたいんです。

フェルナン よく知ってるよ。もうじき会えるさ。隣に住んでるのがマダム・セヴランだ——それで？……

ジェルメース じゃあたし、お店をまちがえたんだわ。

フェルナン そんなこたあない。あっちは帽子屋だもん。

ジェルメース (ほっとして) ええ！ そのとおり。(笑う)……そうなんです、あたしはお針子！ そうですとも！ お店をまちがえたんだわ。失礼しました。ごめんください……ほんとうに、あたししたら……(大笑いする)

フェルナン な、なんてこったい、また急に！……行っちゃうだつて！ 驚いたな、こいつあ。店をまちがえた、ね。たいした娘さ！ (呼ぶ) ベルトラン！——ベルトランが飛び上がって喜びそうな話だ。早く行かないとしまっちゃうぜ。さいなら、お嬢ちゃん。よくある話だ。

第五景

マダム・セヴランがはいってくる。

フェルナン コンばんは、マダム・セヴラン。

マダム・セヴラン コンばんは、ムッシュ・ポール。

フェルナン (ジェルメーヌに) 今度こそは、お店をまわがえないようにね。

ジェルメーヌ さようなら。(彼女は出ていく)

フェルナン 若さだね!

マダム・セヴラン 日が暮れるのが早いこと。

フェルナン うん、ああ……秋だもんね。

マダム・セヴラン それにこの寒さ、どう? 寒いこと。

なのにあの娘、短いスカート、膝ひざ小僧まる出しで、オー

バーも着てないじゃない。若さだね、え? そうさ。こ

ういうふうにみんな年より先に老けていくっていうの

さ、わたしあ。

フェルナン 老けるなんて話はしっこなし。ほんとうはど

ういうことかも知らないくせして。

マダム・セヴラン おや、まあ、からかわないでよ坊や。

それよか、わたしが顔を出したときぐらい、自分の商売

のことを考えなさいよ、わたしあだ買い物に寄っただ

けなんだからね。えーと、なにを買うんだっけ? (自

分のまわりを捜し見る) 見たことないわね、あの娘!

どこから来たの? (見まわす)

フェルナン さあね。

マダム・セヴラン (見つけて) ……クレゾールを一リッ

トルはしかったんだ。はい瓶。

フェルナン クレゾールはもう売ってないんだ。あの娘、

店をまわがえたんだとき。

マダム・セヴラン ちょっとおつむが弱いんじゃない、

え?

フェルナン 若ささ。いい娘だよ。いけねえ、いまあんな

の家にいったんだ!

マダム・セヴラン そう言ったの?

フェルナン そう言ったんだ。すっかり忘れちゃってた

ぜ。(聞)

マダム・セヴラン これ、ハンモック?……

フェルナン そう、ハンモック。

マダム・セヴラン で、ベルトランは?

フェルナン ちょっと、外出中。ところで、いまだんな映

画やってる?

マダム・セヴラン ハムレット。

フェルナン 相変わらずか!

マダム・セヴラン そんなもんよ。じゃ、クレゾールは、

品切れなのね?

フェルナン クレゾールなんぞ、どうでもいいが……いつ

までたつても同じ映画はうんざりさせるな。

マダム・セヴラン どうでもよかないものが見つかったら

おなぐさみだわ。そう言ったでしょ、店の権利なんぞ手